

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2023年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株		
工期	令和5年7月31日 ~ 令和5年11月30日		作成者	金子 歩夢		
作業名称	盤ぶくれ対策工(排水管敷設工等)	作業手順書	作成年月日	令和5年7月11日		
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	黄パト、材料運搬車(トラック)、連絡車(普通車)		現場担当者			
使用工具 機器 (大きさ太さ等は具 体的な寸法を記 す)	コンプレッサ、ブレーカー、チップャー、ハンマードリル、送風機(ダクト)、手鋸 発電機、酸素濃度計、グラインドサンダー、給水ポンプ、インパクトドライバー		協力会社	会社名 自車サイン		
保護具	安全靴、ヘルメット、安全チョッキ(点滅)、防護メガネ、防護マスク、反射脚絆		作業順序	1	準備作業	
	手袋(耐振動用、耐切削用【ヨーロッパ規格EN388:2016 レベルF】)			2	水路清掃	
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	普通自動車運転免許、準中・中・大型自動車運転免許			3	構造物撤去	
				4	型枠工・打設工	
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	止水ゴム撤去:2~5名、ケレン・清掃:2~5名、タッチアップ:2~5名			5	路盤鋤取り	
	止水ゴム設置:2~5名、片付・清掃:全員			6	排水管布設	
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日		令和 年 月 日	7	脱型
	(役割を確認してこの作業に関わる 全員が自筆サインする)				8	片付・清掃
					9	現場離脱

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○×	○○	1:極めて小さい 関係者に対策の周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい 関係者に対策の指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度 職長が確認
					△×、×△	4:かなり大きい 工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい 十分に訓練をした対策が必要	

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対策の指示 1=関係者に対策の周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業									
ミーティング	健康状態の確認	作業責任者(職長)が確認							体調不良の作業員は規制内へ入場させない
	免許・資格等の確認	作業責任者(職長)が確認							
	KYMの実施	作業員全員で							図面を全員で確認し、埋設仮設物が無いことを確認する。
車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認	運転手、全員							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
工事車両進入	工事車両進入	料金所手前合流部	移動中一般車両と接触する。	○	△	○	2	安	道路交通法を遵守する。区間内走行ルール・駐車ルールの厳守
工事車両進入	工事車両進入	指定の入口から	坑口高さが低いため、車高に注意しながら進入、十分な照度の確保						
仮清掃	水路清掃	人力による清掃	清掃の際、ゴミや塵芥が跳ね返り他 作業員へ接触する。	△	○	△	2	安	保護メガネを着用し清掃する。
構造物撤去	研り機を使用しての撤 去	振動工具の使用	ガラを小さくせず、運搬の際に腰を痛 める。	△	△	△	3	安	ハツリの際にガラを運べる程度まで小さくする。
構造物撤去	研り機を使用しての撤 去	振動工具の使用	構造物ハツリ時カッターを入れておら ず、構造物への破壊が拡大する。	△	×	△	4	品	撤去範囲にカッターを入れる。
構造物撤去	サンダーを使用した切り 込み作業	振動工具の使用	切削手袋を着用しておらずサンダー で切削する。	△	×	△	4	安	耐切削用手袋の上に耐振動用手袋を着用する。
型枠工・打設工	型枠材の加工	手鋸の使用	切削手袋を着用しておらず手鋸で切 削する。	△	×	△	4	安	耐切削用手袋の上に耐振動用手袋を着用する。
型枠工・打設工	打設作業	隅部の充填	管下等の隅まで充填されておらず、 流水を排水管に飲み込めない。	△	△	△	3	品	隅部まで充填させるため、最初に隅部への打設を行い 振動を与える。
路盤鋤取り	水路立ち上がり部の施 工	勾配の確認	管の勾配が逆のままになっており通 水が滞る。	○	×	○	3	品	水平器にて勾配を図りながら鋤取りを行う。
排水管布設	排水管の固定	番線での固定	番線の固定を行っておらず管が外れ る。	○	△	○	2	品	アイボルトと番線にて連結し固定させる。
排水管布設	継手部の施工	振動工具の使用	ボルトの締付が甘く継手が外れる。	○	△	○	2	品	インパクトドライバーにてしっかり緊結確認を行う。
脱型	型枠材の脱型	インパクトドライバーの 使用	脱型時排水管がズレて漏水が発生 する。	△	△	△	3	品	脱型時は排水管がズレないよう慎重に外す。
後片付け	清掃・後片付け	残材、工具の忘れのな いように							
	積荷の確認	積荷の状態	走行の中荷崩れ、飛散養生。	○	×	○	3	安	トラック積載状態を確認し、飛散対策で積荷を固定・ネット養生する。
現場離脱	工事車両退出	指定の出口で一旦停止	通過車両と接触する。	○	△	0	0	安	通過車両の通行がないのを確認後退出。
現場離脱									工事車両両端を取外した場合は専用のケースに 確実に格納し車内に保管する事